

第3章 歴史的・文化的環境の保全

第1節 歴史的・文化的環境の保全

1 現状と課題

京都は、千有余年の永きにわたり都が置かれた地域であり、多くの歴史的・文化的遺産が今に伝えられています。特に、日本の文化財の多くが京都に集中し、23年1月1日現在、府内にある国宝は226件と全国で2番目となっています。国指定の重要文化財も2,247件と全国で2番目に多く、とりわけ建造物が290件と全国で最も多く指定されているほか、史跡、名勝、天然記念物としての指定も全国有数を誇っています。なお、府指定、登録等の文化財も、22年4月末現在、建造物183件、美術工芸品254件、無形文化財10件、民俗文化財101件、史跡・名勝・天然記念物60件、文化財環境保全地区68件、選定保存技術2件に19年度から選定を始めた文化的景観7件を加え計685件を数えます。さらに、これら指定文化財等の他、古墳や都城・寺院跡等16,000件余りの遺跡（埋蔵文化財包蔵地）が存在します。

また、地域の自然景観と密接に結びついた歴史的風土を作り出している伝統的建造物群やまちなみ、史跡・名勝・天然記念物、地域の文化と密接に結びついた民俗芸能や風俗・慣習、生活と密接に結びついた伝統産業や伝統工芸などは、京都の環境を形づくる重要な要素であり、京都の貴重な財産として、生活環境や自然環境と一体的に保全し、より豊かなものとして将来に伝えていくべきものであるといえます。

さらに、京都の人々が長い年月をかけて育み受け継いできた、自然を無理なく生活に取り入れる習慣、ものを大切にする習慣などの優れた生活文化を改めて見直し、その継承と活用、振興を図っていくことも必要です。

2 歴史的風土の保全

①自然と調和した建造物群やまちなみの保存

優れた自然や環境と一体をなして歴史的風致を形成している歴史的・伝統的な建造物群を保存するために、府では市町村が実施する「伝統的建造物群保存対策調査」や「重要伝統的建造物群保存地区保存事業」の取組に対し、支援をしています。

②歴史と一体となった自然環境の保全と管理

京都の歴史は、その四季折々の自然や美しい景観などを背景として育まれてきたものであり、これらの文化的環境を守りながらより豊かなものとして将来に伝えていかなければなりません。

府では、文化遺産と一体となって歴史的風土を形成し、文化的に高い価値を持つ自然環境を、府民の財産として未来に継承するため、府環境を守り育てる条例に基づき歴史的な自然環境保全地域に指定しています。これまで、10地域297.83haを指定し、保全地域を管理する上で必要な案内板・標識類等を設置して来訪者への周知徹底を図るとともに、監視員を配置し、監視・指導を行い適正な保全に努めています。

③豊かな歴史と自然のふれあいの場の創出

歴史的な自然環境保全地域を府民と自然とのふれあいの場として活用するため、自然解説板や休憩施設、散策路の整備を行うほか、自然観察会などを開催しています。

④府文化財保護条例による適切な保存

優れた歴史的遺産と貴重な自然環境が一体となり、文化的にも学術的にも高い価値を持つ歴史的風土・建造物群やまちなみを保存するため、府では、府文化財保護条例に基づき、文化財の指

定・登録や、文化財をその環境と併せて保存するために文化財環境保全地区の決定や、文化財を保存していくために欠かせない技術である選定保存技術の選定を行っています。

22年3月23日には、新たに11件の文化財の指定等を行いました。

表3-18 新たな文化財指定等の内容（22年3月23日）

区分	区別	名称	員数	所在地	所有者	
建造物	指定	建仁寺法堂他	9棟	東山区	建仁寺	
	指定	斎神社本殿	1棟	綾部市	斎神社	
美術工芸品	絵画	指定 絹本着色弥勒下生变相図 「画文翰待詔李晟、至元三十一年甲午」等の銘がある	1幅	左京区	妙満寺	
	絵画	指定 絹本着色虚堂智愚像 咸淳改元冬十二月の自賛がある	1幅	北区	瑞峯院	
	彫刻	指定	木造十一面観音坐像 「建保六年戊寅九月二日奉造立」 「大仏師僧寿賢」等の銘がある	1軀	舞鶴市	満願寺
			不動明王 木造立像 毘沙門天	2軀		
	歴史資料	指定	亀山藩史料	198点	亀岡市	亀岡市 (亀岡市文化資料館保管)
考古資料	指定	赤坂今井墳墓出土品	一括	京丹後市	京丹後市 (京丹後市丹後古代の里資料館保管)	
無形民俗文化財	登録	東一口の双盤念仏	—	久御山町	保護団体 安養寺双盤念仏保存会	
名勝	登録	楽々荘庭園	—	亀岡市	個人	
文化的景観	選定	向日市西ノ岡の竹の径・竹林景観	—	向日市	—	
	選定	宮津市上世屋の山村と里山景観	—	宮津市	—	
合計 11件（指定7件、登録2件、選定2件）						

表3-19 府指定・登録等文化財件数一覧（22年4月1日現在）

種別	有形文化財																無形文化財		史跡	名勝	天然記念物	指定登録	小計	文化財環境区	保全地区	選定保存技術	文化的景観	合計								
	建造物	美術工芸品										有形	無形																							
		絵画	彫刻	工芸品	書籍典籍	古文書	考古資料	歴史資料	小計																											
件数	101	82	52	8	44	8	39	9	14	1	35	8	21	1	13	1	218	36	10	0	1	12	18	70	22	0	17	1	15	5	402	206	68	2	7	685
	183	60	52	48	15	43	22	14	254	10	13	88	22	18	20	608																				

また、文化財の保護を図るため、府の指定登録などの文化財について、所有者が行う修理・保存事業に必要な経費の一部を補助し、必要に応じて保護・活用に必要な指導を行っています。

表3-20 事業別補助事業件数（21年度）

区分	件数
建造物保存修理事業	8
建造物防災施設事業	4
美術工芸品保存修理事業	4
美術工芸品防災施設事業	0
無形文化財保存事業	0
記念物保存修理事業	1
文化的景観保存修景事業	1
文化財環境保全地区修理事業	0
計	18

3 地域文化の保存・継承

①歴史的景観の保全

京都独自の歴史的風土・景観等の保全、民俗芸能や風俗・慣習などの伝統文化の保存・継承、さらに地域固有の優れた生活文化を活かす文化活動の機会や文化活動拠点の充実を図るため各種事業を展開しています。

②伝統文化の保存・継承

府内各地に伝えられる民俗芸能や風俗・慣習などの伝統文化を保存・継承するとともに、現代社会の中で新たな関わりを見つけ、次世代に伝える環境づくりを進めています。

また、府緑と文化の基金を活用して、府立植物園では「名月観賞の夕べ事業」を実施し、月を愛でる古来からの慣習を次世代に伝える機会を提供するとともに、自然や家族とのふれあいを育む取組を行っています。

③新たな地域文化の創造推進

既存の教育・研究機関などとの連携により新たな文化・芸術を生み出していくための基盤づくりを進め、新たな地域文化の創造を推進しています。

④文化交流の促進

既存の文化施設を活用して、府民と芸術家などとの交流や全国的・国際的な文化交流などの多様な取組を促進しています。

⑤「京都・文化の森」づくりの推進

15年度から、世界に誇れる京都の景観づくりを進めるため優れた風致景観の形成に貢献する社寺等の後背林などの整備や、京都の文化財や町家の修復のための用材供給を担う森林の整備を進め、京都の文化振興に貢献する森づくりを推進しています。

4 生活文化の継承・振興

①地域固有の生活文化の再評価及び継承・活用・振興

京都の歴史や自然と深く関わりながら、今日まで引き継がれてきた地域固有の優れた生活文化を再評価して、継承・活用・振興を図る仕組みづくりを進めています。

府では、農山漁村地域で活躍される経験豊かな方々が有する農業・林業・水産業に関する伝統的又は優れた生産・生活技能の保存と伝承を目的に、その技能を「農山漁村伝承技能登録・認定制度」により登録するとともに、特に優れた技能の保持者を「農の匠」・「山の匠」・「海の匠」として認定しています。これまで561名について技能の登録を行い、うち51名を「京都府農・山・海の匠」として認定しました。また、これらの方々が生涯現役として、小・中学校における体験学習や地域文化活動の場で広く活躍し、地域で後継者を育て技能を伝承する活動を支援しています。

このほか、15年度策定の「いただきます。地元産」プランに基づき、学校や病院、福祉施設等の給食への地元農産物の利用促進等を通じて食文化や地元農産物を生かした食生活への理解を深める取組を進めています。

②生活文化活動の支援

文化活動拠点の機能の充実を図り、府民・企業・行政などの連携を円滑にして、様々な生活文化活動が展開されるよう支援しています。

③伝統産業・伝統工芸等の振興

我が国の貴重な財産である伝統産業、伝統工芸などの文化的・技術的価値を次代に継承していくための取組を進めるとともに、21世紀のライフスタイルに応じた生活文化創造産業として新たな発展が図られるよう支援をしています。